私の保管標本箱の中に July 21, 1971：北海道樽前山：leg. Katsumi Kanabu というラベルを付したフタスジチョウがあり、これが本種との初の出会いで、化学研究者として会社勤めをしていた当時の中央研究所副所長だった故金武さんから、沖縄産オオゴマダラとあわせて頂いたものだ。その後、1974 年 7 月の松本市三城牧場と 1975 年 7 月の裏日光奥鬼怒で北海道産にくらべて白帯の幅がせまい本州タイプを採集しているが写真記録はない。2000 年の北海道蝶探索ドライブ旅行の、休憩タイムに初めて実物との出会いを果たし、2005 年の北海道では本種が多産するという苫小牧ウトナイ湖のホシザキシモツケが咲く路傍で Video 撮影も楽しめた。以下、北海道蝶紀行から該当部分を抜粋して示す。

July 14, 2000 ：再びトマムへとひた走る．ひとり長距離運転をこなしてくれる妻は，適当に休憩をとりながら進んでくれるが，できればチョウを探索できそうなところをと休憩場所を選んでくれる．オレンジのセセリチョウがいるから，と選んでくれた弟子屈の仁多という所では，そのセセリよりも路傍下ブッシュに咲くシモツケの淡いピンクの花が目に入り，もしかしたらフタスジチョウが，と眼をこらす．食草があるからといってチョウがいるとは限らないのだが北海道はちがう．いるのである．本州産にくらべて白い帯模様が幅広くてとてもきれいなフタスジチョウがシモツケの花のまわりをスイスイと飛んでいるのだ．道路沿いを50m ばかり探索して 2 頭をゲット．やはり北海道産は美しい．

裏面

July 21, 2005：ウトナイ湖；正面に国道が見えるところまできた左手にホザキシモツケが咲く一角があるのでのぞいてみる．鉄アミ柵をへだてた林縁をフタスジチョウが飛ぶのが見えるがこちらに飛んできてくれるかどうかこの時点では分からない．風が吹いてゆれているすぐ近くの笹の葉に新鮮なコヒョウモンがとまっているのでビデオで記録する．今いちどホザキシモツケに目をやると小さいシジミチョウが止まっているのが目に入る．カラスシジミのようだ．求蜜訪花中で少しずつ体をひねって動き続け，いつ飛び立たれるか分からないのでカメラへの切り替えをあきらめてビデオ記録をする．そのあと，左手奥のホザキシモツケにチョウの気配がするので確認するときれいなフタスジチョウが訪花したばかりのようで，こちらも翅の開閉を繰り返しながら動き回るのでビデオ記録のみでがまんする．時刻は 16 時を少し回る頃．レンタカー返却へと走り始めても予定より少し早い程度という余裕のなさなので思い切る．

なお, 2005 年8 月28 日にも南信州しらびそ高原で著しく破損した個体が乾燥した斜面のヒヨドリバナを訪れているのを見たが、あまりにもボロだったので撮影記録はとっていない.

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.